

グリーンケアパートナー 南相馬市



なぜ、長崎、天草地方が 世界遺産になったのかその歴史をひもとく

グリーンケアパートナー理事

上智大学グリーンケア研究所 特任所長

高木 慶子 2018年9月6日



1.

1945年

聖フランシスコ・ザビエルが鹿児島島に上陸

日本にはじめてキリスト教をもたらした

2.

1600年

「関ヶ原の戦」の時には、キリシタンは

日本人口が3,000万人中、30万人がいた



3.

1614年

家康が全国にキリシタン禁教令を公布

4.

1644年

日本における最後の神父が殉教した。

1614年から1873年までキリシタンは殉教、
棄教、転宗、潜伏などの苦しい時代を生きた

5.

幕府はキリシタンをあぶり出すために、
「絵踏み」を毎年正月に行い、
「寺請制(てらうけせい)」、「宗門人別帳」、
「五人組制度」を作り、取り締まりを強化した。

6.

このような厳しい制度の中で潜伏したキリシタン達は、

仏教徒を装いつつ、信仰を保持し継続する

「組」や、「三役(帳方、水方、触役)」などの組織を

整えていった。

7.

長崎の浦上、外海、五島などのキリシタン達は、
「バスチャンの暦」や「こんちりさん」(痛悔祈り)を
信仰生活の基軸とした。



8.

1865年2月 禁教令から250年後、大浦天主堂に
長崎浦上村のクリシタン達が現れ、そこにいた
プチジャン神父に「マリア様のご像はどこ？」と
尋ね、自分たちの信仰を告白した。

9.

「信徒発見」、「神父発見」は、幕府とキリシタン禁教令
受け継いだ明治政府には、大きなショックを受け、
大検挙へとつながった。



10.

その結果、浦上村の村民、約3,400人が
西日本の20藩に流され、拷問と説得により
棄教を迫られた。
すなわち、「浦上四番崩れ」の始まりである。

11.

1873年 条約改正を目指した岩倉使節団は、
訪問した国々からキリシタン迫害に対する批判を受け
ついにキリシタン禁教令の高札を撤去し、
ここにキリシタン迫害の時代が終わった。
また、その背景には拷問を受けても改宗しない
キリシタン達の実像があったことに注目したい。

12.

キリシタン禁教令撤去と共に、カトリック教会に戻った人々を「復活キリシタン」、「潜伏キリシタン」と呼び、その当時に戻らないで潜伏時代の信仰形態を固持している人々を「かくれキリシタン」と呼ぶ。

13.

今回の世界遺産に登録されたのは、
信仰の自由が奪われ、迫害下で潜伏を
余儀なくされたキリシタン達が、先祖から受け継いだ
信仰と文化を聖職者不在のまま、250余年にわたり、
守り伝えてきた歴史と伝統を、世界的に評価できる
宗教文化として認定したものである。

参考文献

高木慶子著

『高木仙右衛門に関する研究「覚書」の分析を中心にして』

(思文閣出版)

松田典子著

『美しき教会と祈り 世界文化遺産

「長崎と天草地方のキリシタン関連遺産を」を巡る』 (講談社)